

2019 年度ハドロキッズチーム 第 6 回開催

むかわ町子ども化石くらぶ「ハドロキッズチーム」第 6 回を 12 月 8 日（日）に開催しました。第 6 回は、「むかわ竜（以下「カムイサウルス」という）」の研究に携わったお二方の先生を講師としてお呼びし、カムイサウルスのスペシャル講義「カムイサウルス、何歳？」を、前進復元骨格レプリカが一時的に展示されている穂別町民センターにおいて実施しました。高学年クラスの午前の部には会員 27 名、低学年クラスの午後の部には会員 18 名が参加しました。また、会員保護者も聴講するとともに、一般公開を実施（最大 50 名で告知、午前 14 名、午後 13 名参加）しています。

今回は、カムイサウルスの全身復元骨格（レプリカ）が一時的に展示されている場所でのカムイサウルスのスペシャル講義となりました。



講義会場。常にカムイサウルスが見守る。

はじめに小林快次教授（北海道大学総合博物館）に、講義「カムイサウルスのすべて！」と題して、カムイサウルスの話だけでなく、今生きている爬虫類、恐竜時代の爬虫類、モンゴルでの恐竜発掘の話などをいただきました。



小林快次教授の講演。



会員児童も聞き入ります。

次に、小林教授とともにカムイサウルスの研究で年齢推定を担当された千葉謙太郎助教（岡山理科大学）に講演・実習をしていただきました。カムイサウルスの年齢を調べるために、サンプリングした右脛骨の薄片（0.1 mm 以下に薄くスライスしたもの）を観察しました。

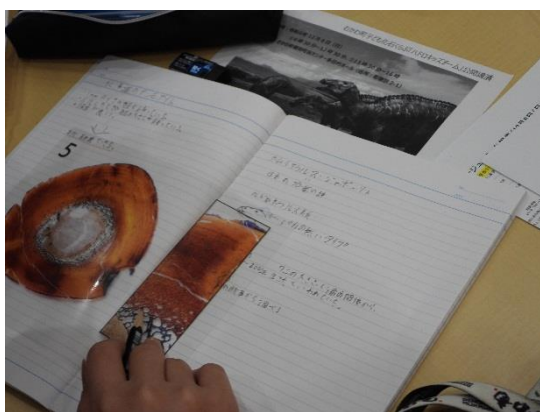


左) カムイサウルスの右脛骨薄片を使用した学習に見入る会員。

左端が千葉助教

右) 実際の研究にも使用した脛骨の薄片をかざす。

実習では、薄片画像を印刷したものを使用し、会員が年齢を推定しました。6種類の透明なシートの左側には実寸大の脛骨の断面が、その右には部分的に拡大した写真が印刷されていて、拡大された部分で木の年輪のように見ることができる線の数を数えました。拡大している部位はシートごとに異なり、6種類のシートすべての写真から年齢を調べてみました。





カムイサウルスの薄片写真が印刷された透明なシートを使って、年齢を調べています。

恐竜の骨にも木の年輪のような構造が見られること、その構造のパターンから、大人（成体）か、こどもの個体であるといったことが解析できることを学びました。実際にカムイサウルスの研究で使われたオリジナル資料をもとに実習するという貴重な機会になりました。



講師の先生・スタッフとの記念写真（左：午前の部、右：午後の部）

穂別博物館学芸員 西村智弘・地域おこし協力隊 中田幸宏
（画像は一部加工をしています）